令和６年
能登半島地震
奥能登豪雨

災害対応の記録とその検証

令和８年３月
石川県能登町

はじめに

令和６年１月１日、これまでに経験したことのない激しい揺れが能登町を襲い、一瞬にして尊い命と多くの暮らしが奪われました。さらに９月の奥能登豪雨が追い打ちをかけ、被害は一層深刻かつ広範に及びました。これらの記憶は、今なお私たちの胸に深く刻まれております。

ここにあらためて、犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族並びに被災されたすべての皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、発災直後から今日に至るまで、全国の皆様から寄せられた温かいご支援と励ましは、私たちにとって大きな支えでありました。ボランティアやNPO団体、国・県・自治体、大学、企業・団体の皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

本誌は、震災直後の対応から復興への歩みに至るまでの記録とその検証、そしてその時々の切実な声や思いを、決して風化させることなく後世へと語り継ぐために編纂したものです。この記録から得られた教訓が、将来の災害への備えや防災・減災の確固たる道標となり、未来の命と暮らしを守る力となることを強く願ってやみません。

現在、本町の復旧・復興は道半ばではありますが、「次世代が希望を持てる持続可能なまちづくり」を掲げ、着実に歩みを進めております。私たちは、奥能登の厳しくも豊かな自然環境のもと、里山里海がもたらす恵みに感謝し、歴史の中で暮らしや生業、そして祭りを紡いできました。そこには常に、地域で互いに支え合う強固な絆がありました。度重なる災害や人口減少により、こうした自然と共にある豊かな営みは失われつつありますが、この困難な状況にある今だからこそ、町民の皆様と共に能登らしい暮らしを築き上げ、地域の人々の幸せを取り戻していくことが重要です。

この未曾有の困難を乗り越え、町民一人ひとりが安心して暮らせる日常を一日も早く取り戻すため、官民が連携して復旧・復興を加速させてまいります。さらにその先にある、将来を見据えた持続可能な地域社会の構築に向けて、町民の皆様と心を一つにし、決して歩みを止めることなく前進を続けていく所存です。

今後とも、変わらぬご支援とご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

令和８年３月

能登町長 吉岡義法

目次

本誌について
写真でみる令和６年能登半島地震と奥能登豪雨

Ⅰ　本編

第１部　令和６年能登半島地震と奥能登豪雨 1
第１章　能登町の概要 1
第２章　能登町におけるこれまでの災害 8
第３章　能登町におけるこれまでの防災・減災対策 10
第４章　令和６年能登半島地震による被害 12
第５章　奥能登豪雨による被害 25
第６章　その他大雨による被害 31

第２部　時系列で振り返る能登半島地震・奥能登豪雨 32

第３部　災害対応の全貌 34
災害対応を通じて明らかになった課題と地域の持つ強さ 34
教訓を残し伝えるうえで重視したこと 36
１　災害対応の主体 37
第１章　地域住民、地域団体、地元事業者等 37
第２章　能登町役場 45
第３章　国・県・関係機関等 53
第４章　地域外からの企業、NPO、ボランティア等 63
２　災害対応の動き 71
第１章　情報の受発信 71
第２章　救助・救出、安全確保 79
第３章　避難行動・避難所運営 87
第４章　備蓄物資、物資輸送・管理 101
第５章　インフラ・ライフライン 109
第６章　保健、医療、福祉 121
第７章　教育、子育て 135
第８章　産業、観光 151
第９章　被災者支援 163
第 10 章　住まいの再建 173
第 11 章　災害廃棄物 183

第 12 章　災害関連死 191
第 13 章　DX 199
第 14 章　行財政の基盤整備 205

第４部　未来へ向けて 209
第１章　復興計画の策定 209
第２章　地区別復興まちづくり計画の策定 213
第３章　復興や次の災害に備えた取組 214
第４章　記憶の継承 218

Ⅱ　アクションプラン編

Ⅲ　資料編

１　能登町防災士会「震災の記憶と記録」（「広報のと」より） 1
２　能登町災害対策本部員等 手記 18
３　能登町小学校長、中学校長 手記 43
４　能登半島地震における初動対応にかかる調査 47
５　各種支援制度（「生活再建に向けた支援ガイドブック」より） 58
６　災害時応援協定一覧 62
７　データ、詳細資料 63

Ⅳ　外部評価

１　外部評価について 1
２　項目別評価 2
３　総評 11

本誌について

概要

能登町（以下、本町）では、令和６年能登半島地震及び奥能登豪雨に際し、地域住民、地域団体、地元事業者、能登町役場、国・県・関係機関、さらに地域外からの多くの支援者など、官民の多様な主体が「命を守る」「地域を守る」という強い意識と使命感のもと、災害対応に取り組みました。

本誌は、災害時におけるこれら多様な主体の対応について、町職員や関係者へのヒアリング調査や各種資料等をもとに記録し、その全体像を明らかにするとともに、発災から復興に至るまでの過程を整理・検証するものです。

これらを踏まえ、本誌で得られた知見や教訓を今後の防災・減災対策および復興まちづくりに生かし、「官民が連携した持続可能で安心・安全なまちづくり」の推進につなげることを目的としています。

想定読者

１．現在の町民、町職員

令和６年能登半島地震の発生から奥能登豪雨を経て復旧・復興に至るまでの動きを振り返ることで、当時の状況の全体像を捉え、今後のまちのあり方について改めて考え、取組を進めていくための参考としていただくことを想定しています。

２．能登町に関わりのある方、これからつながる方

当時の出来事や、地域の方々・関係者がどのように考え行動したのかに触れていただくことで、それぞれの立場で果たす役割や関わり方について考える一助としていただくことを想定しています。

３．支援をいただいた方、これから同じような災害に見舞われる可能性のある地域の方

本町の災害対応の記録とその検証を公表することで、支援をいただいたすべての方々への報告とするとともに、同様の災害が発生した際の対応の参考としていただくことを想定しています。

構成・特徴

Ⅰ　本編

奥能登豪雨の発生から概ね１年間を検証の対象期間とし、令和６年能登半島地震及び奥能登豪雨の発生から復興事業の着手までの間、能登町で行われた様々な活動について、住民・地域等に加え、行政、官民連携の観点から、記録として残すものです。

第１部　令和６年能登半島地震と奥能登豪雨

災害の概要や災害対応の前提となった本町の特徴を整理しました。

第２部　時系列で振り返る能登半島地震・奥能登豪雨

本町で起こったことを一覧できるよう、時系列で様々な事象を整理しました。

第３部　災害対応の全貌

様々な主体による対応が行われたことを残し伝えることができるよう、災害対応の主体を整理したのち、災害対応の動きを整理しました。また記録をとりまとめるな

か、本町として残し伝えるべきと考えた教訓を、それぞれ住民・地域等、行政、官民連携の観点から、整理しました。

第４部　未来へ向けて

復興への足がかりの状況を記載するとともに、未来を担う小・中学生からの声を掲載しました。

Ⅱ　アクションプラン編

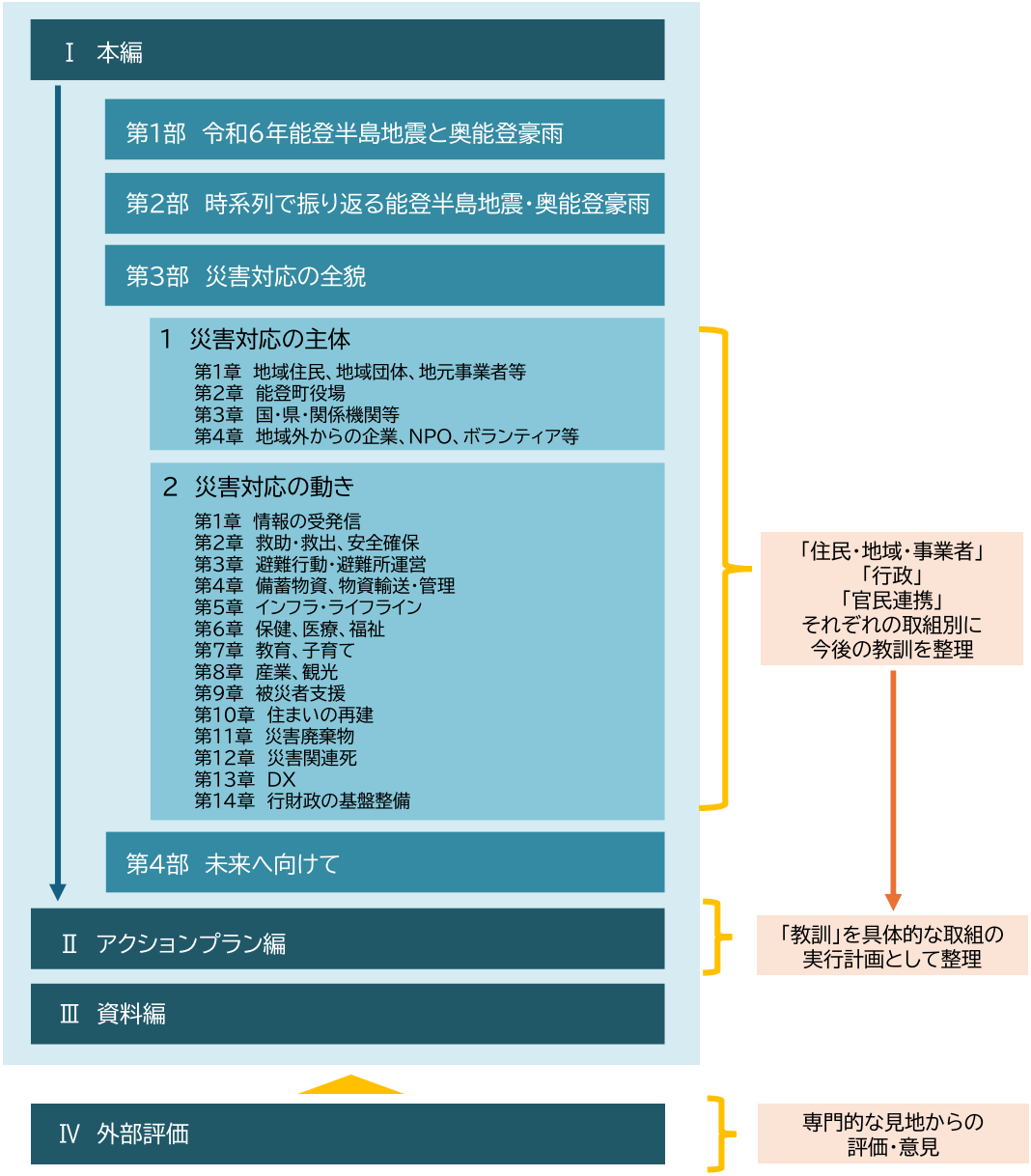
本編で整理した教訓を具体的な取組として推進することができるよう、実施する取組について、実施内容、実施時期、実施主体（担当部署）を明示しました。

Ⅲ　資料編

本編の編集を進めるなかで収集し参照した資料やデータを掲載しました。

Ⅳ　外部評価

本誌の作成及び能登町の復興の推進に関わっていただいた有識者の方々の評価・意見を掲載しました。



記録と検証の対象期間

令和６年能登半島地震発災から、奥能登豪雨発生後概ね１年間

記録と検証の進め方

役場内をはじめ、国や県、応援自治体等の関係機関、地域団体、学校、地元事業者、医療機関、NPO 団体等の活動状況等について、ヒアリング調査や資料等により、把握を行いました。

災害対応の記録及び検証作業では、対応にあたった関係者の経験を収集・整理するため、「災害対応検証委員会」を設置するとともに、豊富な知見と経験を有する学識経験者による「災害対応ワーキンググループ」を設置しました。

＜意見聴取（ヒアリング調査）＞

１）能登町役場各課・局、奥能登広域圏事務組合消防本部

２）地域住民、地域団体、地域に根差した公的団体：

自治会・自主防災組織代表者、防災士会、消防団、民生委員児童委員連合会

３）関係機関：

国、県、応援自治体（対口支援県、姉妹都市）、社会福祉協議会

４）教育機関：

こども園、小学校、中学校、高等学校、公民館

５）事業所等：

農業協同組合、漁業協同組合、森林組合、商工会、町内事業所、医療機関、福祉施設、介護施設、障害者施設、金融機関（銀行、信用金庫、郵便局）、協定締結企業・団体、NPO 団体 等

ヒアリング調査の様子

検証の体制

「能登半島地震・奥能登豪雨災害対応検証委員会」を設置するとともに、検証委員会の機能を補佐し、専門的な事項を調査するため、「災害対応ワーキンググループ」を設置しました。

・能登半島地震・奥能登豪雨災害対応検証委員会

区分	職名	氏名
委 員 長	町長	吉田 義法
副委員長	副町長	野口 隆
	教育長	眞智 富子
委　　員	議会事務局長	諸角 勝則
	総務課長	山下 栄治
	復興推進課長（町参事）	村木 茂
	企画財政課長	吉村 泰輝
	税務課長	蒲田 政彦
	住民課長	折坂 昭夫
	健康福祉課長	和田 いずみ
	農林水産課長	仲谷 宗
	建設水道課長	内糸 英和
	建設水道課担当課長	大畑 幸夫
	復興住宅課長	鏡島 敏雄
	ふるさと振興課長	向井 豊人
	柳田総合支所長	小路 芳宏
	内浦総合支所長	鵜垣 厚夫
	公立宇出津総合病院事務局長	西谷 幸一
	会計課長	石﨑 宏子
	教育委員会事務局長	河崎 恭子
	能登消防署長	谷内 健治

・災害対応ワーキンググループ

＜ワーキンググループ委員＞

氏名	所属・職名
牧 紀男	京都大学防災研究所 教授（委員長）
奥村 与志弘	関西大学社会安全学部 教授
青木 賢人	金沢大学人間社会研究域地域創造学系 准教授
青田 良介	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
今石 佳太	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 客員研究員
行司 高博	ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究調査部長

検証委員会・ワーキンググループ会議　スケジュール

・能登半島地震・奥能登豪雨災害対応検証委員会

年度	回数	実施日	備考
令和７年度	第１回	５/28（水）	
	第２回	６/25（水）	
	第３回	12/２（火）	災害対応ワーキンググループ会議と同時開催
	第４回	１/29（木）	
	第５回	２/24（火）	
	第６回	３/４（水）	災害対応ワーキンググループ会議と同時開催
	第７回	３/30（月）	

・災害対応ワーキンググループ会議

年度	回数	実施日	備考
令和７年度	第１回	６/16（月）	
	第２回	12/２（火）	
	第３回	３/４（水）	

能登半島地震・奥能登豪雨災害対応検証委員会の様子

災害対応ワーキンググループ会議の様子

写真でみる令和６年能登半島地震と奥能登豪雨

■令和６年能登半島地震

【被害の状況】

倒壊した酒蔵（鵜川）

津波の襲来を受けたまち（白丸）

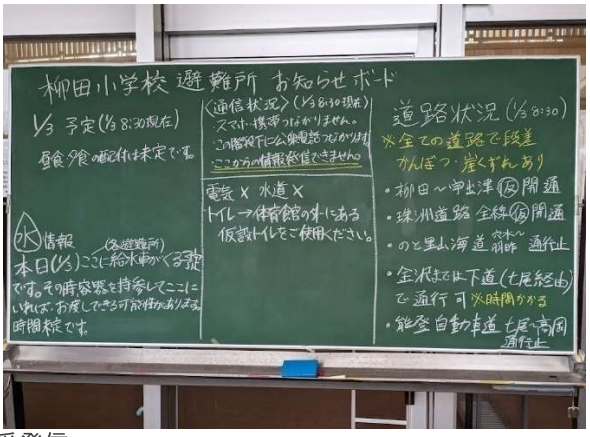
津波に伴う火災の発生（白丸）

山の崩壊（五十里）

大規模盛土造成地の地すべり（藤波）

液状化によるマンホールの隆起（鴨川）

【対応状況】



情報の受発信
（左：１月５日 17 時「災害対策本部会議」、右：１月３日 避難所に設置された掲示板（柳田小学校））

救助・救出活動
（左：ヘリコプターによる搬送（柳田野球場）、右：倒壊家屋からの救出（白丸））

避難行動・避難所運営
（左：避難所での健康体操（松波中学校）、右：避難所への保健師の巡回（松波中学校））

備蓄物資、物資輸送・管理
物資の配布（左：物資集配拠点(柳田体育館)、右：物資配布の様子(コンセールのと)）

インフラ・ライフライン
（全国からの支援による給水活動の様子(左：内浦総合支所、右：いやさか広場)）

保健、医療、福祉
（DMAT、赤十字医療班による支援）

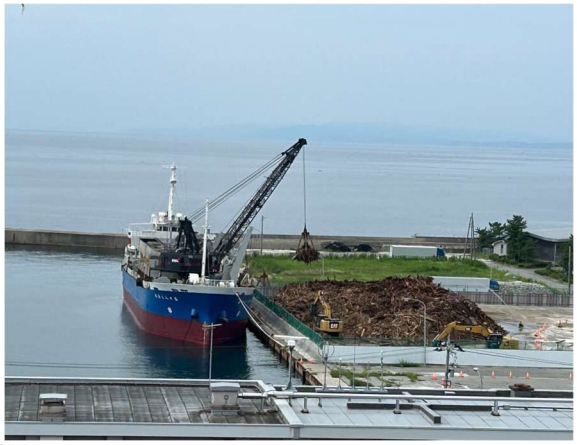
教育、子育て
（左：柳田中学校への上り坂、右：被災した松波小学校体育館）

産業、観光
（左：農道被害（鈴ケ嶺）、右：津波で打ち上げられた漁船（市之瀬））

被災者支援
（左：自衛隊による入浴支援（松波）、右：サロン活動（鵜川））

生活再建へ向けた相談の様子
（左：専門家による相談会（町役場）、右：無料個別相談（訪問型））

住まいの再建
（左：応急仮設住宅外観（ふじなみ団地）、右：応急仮設住宅の集会所（うかわ団地））



災害廃棄物処理
（左：公費解体の様子、右：災害廃棄物の広域輸送のための搬出の様子（宇出津新港））

専門ボランティアによる活動の様子

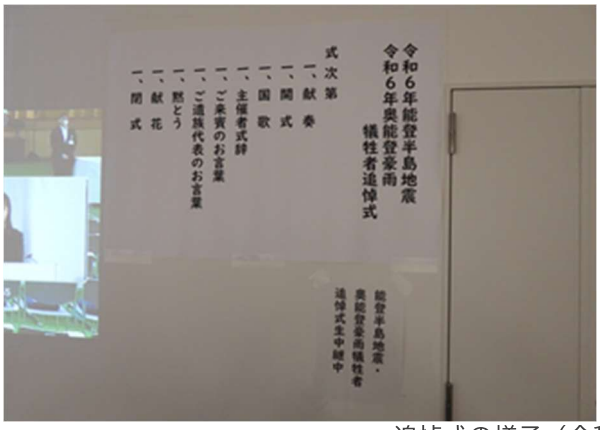
復旧活動の様子
（左：下水施設の現場確認、右：作業重機）

除雪作業の様子

天皇陛下のお見舞い（令和６年４月 12 日）

視察、意見交換

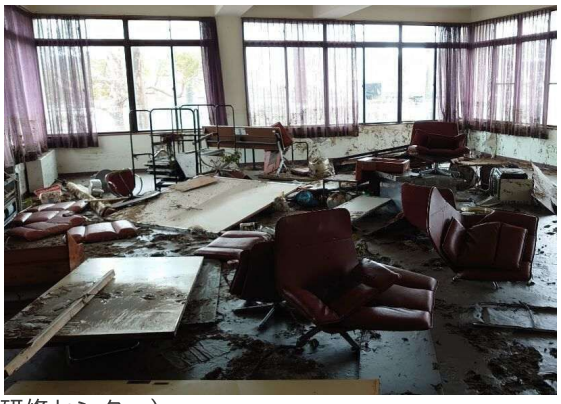
（左：松村防災担当大臣（当時）、古賀内閣府副大臣（当時）との意見交換、右：奥能登豪雨を受けて松村防災担当大臣（当時）の視察）



追悼式の様子（令和７年１月１日）

【公共施設等の被害】

内浦総合運動公園
（左：津波の泥で覆われた体育館周辺、右：野球場）



内浦総合運動公園（研修センター）

内浦総合運動公園
（左：陸上競技場、右：テニスコート）

地震で大きく損壊した
能登七見健康福祉の郷「なごみ」

全壊した国民宿舎能登やなぎだ荘別館

松波小学校グラウンドの地割

松波小学校調理室の柱の破損

宇出津小学校体育館壁の崩落

能都体育館コンクリート壁の崩落

■奥能登豪雨

土砂に埋もれた家屋（北河内）

激しく氾濫した河川（日詰脇）

流されて橋梁にかかった車（北河内）

道路の崩壊（北河内）

救助・捜索活動の様子（北河内）